



背景・目的

- 地域での低炭素型交通の確立が必須だが、公共交通が衰退し、マイカー交通が主流になっている地方部が多い現状。
- 低炭素型モビリティであるグリーンスローモビリティ（時速20km未満で公道を走る4人乗り以上の電動モビリティ）は、一部地域で無償運送が行われているものの、地域での本格導入が進んでいない。
- 様々な地域へのグリーンスローモビリティの導入を進めることで、マイカー等からの移動手段の転換を促進する。高齢者の移動手段の確保や観光振興など、交通の低炭素化と併せて地域課題の解決を図る。
- 併せて、車両部材としてのCNFの実証、IoTを活用したサービスの構築など複数テーマにおけるグリーンスローモビリティの導入方法を検証する。

事業目的・概要等

事業概要

- ①グリーンスローモビリティ（ゴルフカート、eCOM8等）の車両購入費補助
- ②先進技術を活用したグリーンスローモビリティの導入実証事業（CNF、IoT技術の活用等）
 - 実施期間：平成31年度（2019年度）～平成35年度（2023年度）

事業スキーム

- 経費：①車両購入補助費、②実証事業委託費
- 対象：①グリーンスローモビリティを使って旅客運送事業を行う地方公共団体及び地方公共団体と連携して旅客運送を行う団体等、バス所有事業者、タクシー所有事業者
- ②民間事業者等

補助割合：①2/3



グリーンスローモビリティの特長

電動で時速20km未満で公道を走ることができる4人乗り以上のモビリティ

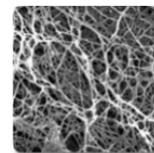
- ①**Green**：電気自動車
→CO2排出量が少なく、GS撤退地域でも運行可
- ②**Slow**：時速20km未満、観光に適したスピード
- ③**Safety**：比較的安全、高齢者も運転可
- ④**Small**：小型なので道幅が狭くても問題ない
→狭い道の中山間地・住宅地・離島など今まで公共交通を使えなかった地域で導入可能
- ⑤**Open**：開放的や対面式のシートで話が弾む
→「乗りたい」「乗って楽しい」モビリティ



イメージ

【事業のイメージ】

- ①グリーンスローモビリティ導入にかかる購入経費を補助
- ②CNF、IoT等の先進技術を活用したグリーンスローモビリティの導入実証事業を実施



（出典：ナノセルロースフォーラム）
セルロースナノファイバー



I o T



グリーンスローモビリティ

期待される効果

- 低炭素な移動手段への転換による、運輸部門におけるCO2排出量の削減。
- 様々な地域における活用方法確立により、多くの地域へ導入が波及。
- 導入台数の増加によるグリーンスローモビリティの価格低減。
- 先端技術の活用方法の実証による、より省エネ効果の高い導入方法の確立。